

目的；人工臓器や臓器移植等医療技術の急速な進歩は過去には生存しえなかつた人々の生存を可能にしてきた。次の段階として延命の手段としてではなく、質の高い生活を可能にする医療技術のあり方が求められている。ここで、腎移植を受けた患者の生活状況の変化を明らかにすることにより、生活の質の視点から腎臓透析と比較しての腎移植の効果について考究した。

方法；調査対象は北里大学病院で腎移植を受けてから6ヶ月以上経過し現在15才以上である生存者139名。昭和60年6月、郵送法によりアンケート調査を実施し、移植への経過、腎移植前後の生活の変化、現在の生活状況、腎移植に対する意識・評価等を明らかにした。

結果；調査対象のうち住所不明の者、調査途中で死亡が確認された者を除く118名のうち89名(約75%)から解答を得た。対象者は男性が64名と多い。のべ移植回数92回で生体腎移植が72回と割合が高い。移植後の経過期間は最長で13年3ヶ月。移植した腎臓が現在生着しているもの55名、非生着で再透析のもの34名。移植前の透析時の状況と比較して、職業生活では無職が減少、勤労者・自営業者が増加している。身体状況、仕事の達成度、暮らし向き、余暇生活など全体的にどの項目でも移植により生活の質が向上している。特に主観的な生活満足度は急激な上昇を示している。但し、非生着例においては、生着例程の生活向上はみられない。移植への評価も、生着例ではほぼ全員が高いが非生着例では約半数しか評価されていない。腎移植の効果は非生着への対応も含めて考究しなければならない。